

新たな息吹 SINCE2007



# さわの里だより



横浜市立さわの里小学校 学校だより

URL <https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/sawanosato>E-mail [y3sawano@edu.city.yokohama.jp](mailto:y3sawano@edu.city.yokohama.jp)**8・9月号**

「この仲間のできたことが、一番のいい思い出」  
～「仲間を語る姿」に思うこと～

学校長 鈴木 和枝

子どもたちが学校に帰ってきました。「夏休みは、誰にとっても39日間同じ日数。この39日間をどう使うかは自分次第。ぜひやってみたいなと思うことを見つけて挑戦を。夏休みにしかできないことを。」と伝えましたが、一人ひとりの子どもにこの夏休みがどうだったか尋ねてみたいと思います。

さて、「筋書きのないドラマ」と称される「全国高校野球選手権大会」が8月22日に閉幕しました。新型コロナの影響で、試合日程の変更や選手の入替えなどが報道で伝えられるたびに、参加している学校の生徒や学校関係者のことを思いました。きっと、いや絶対に私などには想像ができないことがたくさんあったのだと思います。

2年前には大会が中止され、昨年度は辞退された学校もあったこの大会でしたが、今年度は全49校の参加がかなったことに「奇跡」という言葉すらありましたが、そうした大会だったからこそ、選手や監督、応援団や保護者、関係の方々の思いのこもった言葉がありました。

中でも、様々な学校の選手、監督が語る「仲間」、「生徒」への思い。この一語一語には、たしかに今のその人にしか語れない深くて熱い思いがぎゅっと込められていると感じました。上記の言葉はその一つです。

「仲間と一緒にうれし涙を流せたことが一番の幸せ」

「(コロナ禍であっても)この2年間苦しいことは一つもなく楽しいことばかりだった」といった選手の言葉。

「(今回の全49校が参加できた大会は)入学どころか、おそらく中学校の卒業式もちゃんとできなくて、活動してもどこかでストップがかかってしまうような苦しい中で、あきらめないでやってくれた全ての高校生の賜物。」

「どんな展開になったとしても、(試合には)全員を出したいと思っていた。」

という監督の言葉。そこには、多くの困難の道を共に歩んできた「人」を思う気持ちがあります。

いよいよ2学期が始まります。1年で一番学びが充実し、力が付くときです。そこには必ず「本気の思い」や「一緒にがんばる仲間や人の存在への気付き」があるはず。そうしたものを見つけてことができるよう、子どもの将来の人生につながる内面の力が育つよう、子どもたちが思いや願いの実現に臆することなく挑戦できるよう、2学期も教職員一同がんばります。どうぞよろしくお願いいたします。最後になりましたが、今年の夏も多くの災害がありました。被災された方々、関係の方々に心よりお見舞い申し上げます。

